

太田日本語教室あゆみの会受講生

「世界の料理教室」



太田日本語教室あゆみの会の恒例行事「世界の料理教室」が今年も開催されました。世界中のいろいろな料理が日本にいながらにして食べられる！と好評のこの行事ですが、今年も10ヵ国81人の日本語教室受講生が参加し、調理に腕を奮い、また世界の料理を堪能しました。餃子は日本人にもたいへん馴染み深い料理ですが、やはり中国の方が作る本場の味は一味も二味も違うようです。タイのカレーは薄緑色でしたが、その色とは裏腹にとっても辛かったのが印象的でした。そして今年については、トルコ料理も登場しました。焼いたさばをパンで挟んだ”トルコ風サンドウィッチ”は、見た目とは違いさっぱりとした風味でした。その他にも多くの料理がありましたが、どの国の料理も美味で、また来年が楽しみです。

HEAD LINE

- 1 太田日本語教室あゆみの会受講生「世界の料理教室」
- 2 国際姉妹都市グレイターラフィエット 代表団受入・第1回交換学生受入
- 3 国際姉妹都市バーバンク市交換学生受入
- 4 キッズ・イングリッシュ・スクール2012開催
- 5 国際姉妹都市グレイターラフィエット交換学生派遣
- 6 ザフレンドシップフォース・オブ・太田・群馬 「ゼーランドクラブ受入」 太田ユネスコ協会「英語キャンプ」 「国際理解バス」
- 7 太田市国際交流協会総会 開催 Friendship Information (各種イベント・各種語学講座)
- 8 Voice to voice

国際姉妹都市グレイターラファイエット



グレイターラファイエットからぐんま国際アカデミーに寄贈された本の特設コーナーがありました



代表団受入



グレイターラファイエットからの第1回学生派遣団が訪れる太田市立商業高校を視察



スバルビジターセンター視察



歓迎レセプション

4月18日(水)～20日(金)までの3日間、米国インディアナ州グレイターラファイエットより、トニー・ロスワルスキーラファイエット市長、ジョン・デニス西ラファイエット市長、デイヴィッド・バイヤーズティピカヌー郡行政委員長を含む代表団10人が太田市を訪れました。滞在中は交流のきっかけとなった富士重工業株を始め、市内企業を視察し、ぐんま国際アカデミーや太田市立商業高校を訪れ市内の生徒達と交流しました。市長表敬訪問では和やかな雰囲気の中、今後も太田市との友好な関係を築いていくことが確認されました。

第1回交換学生受入

6月18日(月)～26日(火)までの9日間、米国インディアナ州グレイターラファイエットより、学生3人引率者1人が太田市を訪れました。これまでグレイターラファイエットとは代表団受入や学生派遣を通じて交流を重ねてきましたが、平成5年の姉妹都市提携以来、学生達による訪問団は今回が初めてです。

訪問団の皆さんは、市長表敬訪問や市内企業の見学をし、高校体験入学を通して太田市の生徒達と交流しました。

またホストファミリーとも打ち解け、日本での滞在を満喫しました。



市内ラファイエット通りにて



〈感想〉

It was fun befriending people our age, seeing nature, and experiencing Japanese culture.

(同じ年齢の子と友達になれたことが楽しかったし、自然を見学し、日本の文化を体験できてよかったです。)

I will definitely come back to Japan at least to see my family.

I hope to learn more Japanese by then.

(また日本に来てファミリーに会いたいです。その時まで、日本語をもっと覚えようと思います！)

I enjoyed my stay.

(滞在を楽しみました。)

I was very apprehensive at first - the unknown is always a bit scary - But my family was very helpful and kind.

(最初のうちは未知に対するためらいがあり躊躇していましたが、ホストファミリーが気遣ってくださり、とても親切でした。)



国際姉妹都市バーバンク市交換学生受入



庁舎見学（議場）



市長表敬訪問



日光見学

太田市のもう一つの国際姉妹都市、米国カリフォルニア州バーバンク市からも交換学生が太田にやってきました。今年高校生13人と引率者2人が、例年どおりホームステイにて、7月11日（水）～25日（水）の15日間訪れました。滞在期間中は、書道・茶道体験などから日光東照宮見学まで、日本の文化を体験したり、歴史を学んだりする様々な行事が用意されましたが、みな興味津々で各行事に臨み、日本の文化や歴史を肌で感じとったようです。土日のファミリーデーにはホストファミリーと一緒に過ごし、通常の海外旅行では味わうことの出来ない、ホームステイならではの、まさに家族ぐるみの心と心の交流が図られたようです。

《交換学生感想》

I really enjoyed Japan, I think this program is great, the fact that one gets to stay with a family is beyond my understanding. The families are so welcoming and after a day you feel like you lived with them your whole life.

（日本の生活を満喫できる、とても素晴らしいプログラムだと思います。事実、このホームステイで私の見識はとても深まったと思っています。ホストファミリーは皆、とても温かく迎え入れてくれ、一日過ごただけで、ずっと一緒にいたように感じられました。）



スバルビジターセンター見学

These past two weeks were really great. It was so wonderful traveling to Ota, and meeting so many new friends. It is an experience I will always treasure. Thank you!

本当に素晴らしい2週間でした。太田にいられて、またたくさんの友達をつくることもできて、本当に楽しい日々でした。いつまでもずっと心に残る経験をさせてもらったと思っています。



市内高校体験入学

Both of my host families were all kind and welcoming. I will never be able to forget them while my personality matched better with one of two families, I enjoyed my time in Ota.

（ホストファミリーは皆とても親切だったし、温かく迎え入れてくれました。どのホストファミリーともとても気が合い、今後決して忘れることがないと思えるほど、太田での時間をエンジョイできました。）



おた夏まつりにて
おみこし体験



日本文化体験

Yes, it was so fun I would recommend it to anyone! It's an experience I will never forget.

（誰にでもお勧めしたいくらい、とても楽しい滞在になりました。決して忘れることのできない経験をさせてもらったと思っています。）

キッズ・イングリッシュ・スクール2012 開催



7月25日(水)～27日(金)の3日間、福祉会館にておいて、キッズ・イングリッシュ・スクールを開催しました。22人のALT(外国語指導助手)のもと51人の小学生が歌やゲームを通して楽しく英語に触れました。学年ごとのテーマに沿った盛り沢山の内容でスクールは進み、会場には子供達の活発な声が響き、楽しそうな笑顔が溢れていました。

1・2年生
テーマ
『オリンピック』



3・4年生
テーマ
『忍者修行』



忍者をモチーフに
フレーズを習得!



5・6年生
テーマ
『世界旅行』



子供達の感想

- ☆楽しかった。英語の歌も覚えられてうれしかったです。また参加したいです。
- ☆すごく楽しくて英語が大好きになった!先生もおもしろくて大好き!
- ☆国旗のかるたやジェスチャーがたのしかった。



金メダルもらったよ!



パスポートを持って、いざ出発!



国際姉妹都市グレイターラフィエット交換学生派遣



西ラフィエット市長を表敬訪問



コートビルディング前で姉妹都市委員の方と

太田市と米国インディアナ州グレイターラフィエット（ラフィエット市・西ラフィエット市・ティピカヌー郡）は富士重工業株の関連会社「SIA」（スバル・インディアナ・オートモーティブ）がラフィエット市に進出したことが縁で平成5年10月に姉妹都市提携を結びました。交流の一環としての交換学生派遣事業は今回で7回目になります。8月17日（金）～27日（月）までの11日間の日程で、中学生7名、高校生6名、引率2名の計15名を派遣しました。



ウルフパークにて



Battle Ground Middle Schoolにて学校体験

○参加者の感想

- ・スピーチの中で自分が言ったユーモアがアメリカの人に受けたのが嬉しかった。
- ・英語のテストの点数が良くても、話せなくてはダメだと実感した。
- ・アメリカの大学に進学することも視野に入れて、これから頑張りたいと思うようになった。
- ・英語を勉強し、もう一度ラフィエットに行って、今回お世話になった人に感謝の言葉を伝えたい。
- ・ホームステイで文化の違いを体験できた。
- ・アメリカ人と日本人では感情の表現が違うことを感じた。
- ・学校や家庭など普通の旅行では行けない所に行くことで文化の違いを体験できた。
- ・ホストファミリーにラフィエットのことを色々教えてもらったが、次は自分が日本のことを教えてあげたい。
- ・何事にも興味を持って積極的に行動することが大切だと思った。
- ・話しかけてもなかなか通じなかったり、相手の話すことが聞き取れなくて悔しい思いをした。
- ・もっと英語を勉強してから行けばよかった。



オヘア空港内のレストランにて

ザフレンドシップフォース・オブ・太田・群馬が オランダ、ゼーランドクラブ受入



市長表敬訪問

ホームステイにより世界中を旅し、また世界中の人々との交流を図ることを目的とするクラブである、ザフレンドシップフォース・オブ・太田・群馬が、同じ理念を基に世界中を旅する、オランダのゼーランドクラブの受入を、4月6日（金）～13日（金）まで行いました。訪問団15名は、まず清水市長を表敬訪問し、ヨーロッパとアジアの文化の違いや、オランダと日本の教育に関しての意見を交わしました。日光訪問の際は、あいにくの雨に見舞われてしまいましたが、華厳の滝や東照宮の荘厳で重厚なその佇まいに、みな目を奪われていました。8日間という短い滞在期間でしたが、日本の春を満喫し帰国の途につきました。



日光見学

太田ユネスコ協会「英語キャンプ」

太田ユネスコ協会の夏の恒例行事となった英語キャンプ。今年は10回目という節目の年になりましたが、66名にもものぼる中学生の参加者を迎え、8月17日（金）～19日（日）までの2泊3日の日程で、東毛青少年自然の家を会場に開催されました。



市内各中学校から集まった生徒たちは、開校日当初こそ緊張した面持ちでしたが、徐々に他校の生徒たちと打ち解け、ALT主導によるスキット練習やゲームなどを通じたまさに「生の英語」に、緊張感を持ちつつも時に楽しく臨んでいました。

この生徒たちの中から、いつか外国の人たちと気軽に意見交換できる人がたくさんでてくることでしょう。



太田ユネスコ協会「国際理解バス」

英語キャンプと並ぶ夏の恒例行事である太田ユネスコ協会主催の国際理解バスが、今年は8月20日（月）に実施されました。この国際理解バスは、次世代を担う小学生を対象に、国際的な施設や場所を視察研修することにより、国際理解と視野を深め、真の国際人としての資質を身に付けてもらうと同時に、海外援助と異文化への理解と興味を持ってもらうことを目的に実施しているものです。

今年は昨年に引き続きJICA筑波（国際協力機構筑波国際センター）を訪問しました。JICA筑波には、主に日本の農業技術を習得するための海外からの研修生が大勢滞在し、片言ながらも英語と日本語で互いにコミュニケーションをとりつつ、参加者は皆、異文化への興味を深めていったようでした。



平成24年度太田市国際交流協会総会

5月30日（水）午前10時30分より太田市福祉会館3階大研修室で行われ、平成23年度の事業報告及び収支決算報告、平成24年度の事業計画及び事業予算について審議が行われ、全議案が承認されました。また、質疑応答では会員より太田市の多文化共生政策について積極的な提案がなされました。



Friendship Information

各種イベント

・国際交流広場

日時：10月27日（土）～28日（日）

会場：太田スポレク祭会場
（運動公園サブグラウンド）

入場無料

・第21回 国際ふれあいパーティー

日時：12月2日（日）午後6時30分～9時

会場：マリエール太田

・第16回 外国人日本語スピーチコンテスト

日時：平成25年3月3日（日）午後

会場：学習文化センター（2階）視聴覚ホール
入場無料

各種語学講座

・初級スペイン語講座

日時：11月7日（水）～12月12日（水）
午後2時～3時30分

会場：国際交流センター（2階・第1講座室）

・初級韓国語講座

日時：11月2日（金）～12月14日（金）
午前10時～11時30分

会場：国際交流センター（2階・交流サロン）

・デイリーイングリッシュ（英会話講座）

日時：11月2日（金）～12月14日（金）
午後2時～3時30分

会場：国際交流センター（2階・交流サロン）

・初級日本語ボランティア講師研修講座

日時：11月3日（土）～11月24日（土）
午前10時～12時

会場：国際交流センター（2階・第1講座室）

・中級日本語ボランティア講師研修講座

時期：平成25年2月予定

会場：国際交流センター

◆会員募集中◆

国際交流に関心のある方、ぜひご加入ください。

会費（年額）：法人□ 5,000円 個人□ 1,000円

VOICE TO VOICE



Mountain Hues

青い山

Lynn Allmon
Kyuhaku Junior High School
ALT

休泊中学校 A L T
(外国語補助教員)

リン・オールモン

Some of my most cherished memories from the US include the many hiking trips in the Blue Ridge Mountains close to my home in Virginia. On one occasion, in late winter, my college roommates and I decided to wake up at 4am to go see the sunrise from the top of nearby Mt. Humpback. Although we were cold and tired, in addition to dreading our rapidly approaching 8:30am classes, the view from the summit was worth the effort. The rising sun threw illumination on the smoky blue haze which gives the Blue Ridge Mountains their name.

While I truly wanted to live in Japan, drawn by the wonderful experiences I'd had on a three month long volunteer and language study trip here previously, I was also loath to leave my friends, family, and my hometown.

But the pull of remembered yakisoba parties, fireworks by the river, and relaxing hot spring trips proved too strong.

As I learned, working somewhere is not the same as visiting. New foods, a new culture, and new places, on top of a new job, were difficult to take in all at once.

In spite of this, frustration gradually gave way to renewed appreciation. One incident in particular gave me the perspective I needed. On my first climb up Mt. Kanayama, my friends and I found a spot looking out over the mountains near Ota. A sea of brilliant green. But it dawned on me that in Japanese the word for this green and the Blue Ridge Mountains' blue is the same: "ao." Even in a country far away from my home country, I once again found myself with friends and the mountains.

It's these small, yet fascinating differences coupled with the comforting similarities which make me happy to be living in Japan.

アメリカにいた時に、実家のあるバージニア州のブルーリッジ山脈に、登った思い出を特に大切にしています。ある真冬の月曜日、日の出を見るために、大学のルームメイトと、アパートの近くのハンパバック山に登ることにしました。朝の4時に起きたし、山を下りたら、すぐ後の8時30分の授業に行かなければならなかったのですが、言うまでもなく、寒くてたまたま疲れれました。しかし、疲れがふっとぶくらい、頂上からの景色は言葉で表せないほどきれいで、とても感動しました。朝日で照らされるブルーの霞を見て、なぜ「ブルーリッジ山脈」は「ブルー」と言われているのかが、誰でもわかるに違いないと思いました。

農場でのボランティアと留学をして、自分が想像していたよりいい経験をたくさんしたせいか、日本で働きたくになりました。その一方で、実家のみんなと離れることが、いやでしたが、長野県の温泉をはじめ、愛知県の花火も、茨城県の海も、素晴らしかったので、更に、日本にひかれていきました。

ただ、日本に旅行することと日本で勤めることがまったく違うとわかるようになりました。これまでも日本に行ったことはあったのに、実際に生活してみると、まだあまり知らない文化や、未知の言葉や、見たことない食べ物もあり、さらに、新しい仕事に慣れることが大変でした。

はじめはもちろん悔しかったですけれど、この「悔しさ」はだんだん魅力になりました。山登りしたときに鮮やかに思い出したことがあります。初めて太田市の金山に登った時、途中で反対側の山が見えるスポットがありました。鮮やかなグリーン森の森。見た瞬間、バージニアのブルーリッジ山脈を思い出しました。山の「グリーン」と「ブルー」は両方とも日本語で「青」と呼ばれていることも思い出して、なんだか安心しました。

これからもこういう、表現は異なるのに思いは同じ、というような不思議な発見ができることが楽しみです。



Virginia's Blue Ridge Mountains
バージニア州のブルーリッジ山脈

編集後記

太田市国際交流協会では、ホームページを開設し、当協会の情報を日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語で掲載しています。皆さんからのご意見・ご要望などもぜひお聞かせください。お待ちしております。
<http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0020-007kikaku-kouryu>